みのり通信

第5号
発行　平成２４年1月２５日
特定非営利活動法人みのり福祉会
〒285-0862
千葉県佐倉市新臼井田8-3
☎043-462-6424

会報のバックナンバーは、ホームページ www12.ocn.ne.jp/~minorihm に掲載してあります。

ごあいさつ

新年にあたって

理事長　立田　芳弘

新しい年がスタートしました。
今年度も昨年同様ご支援・ご協力をお願いいたします。

おかげ様で、みのり福祉会が活動して早いもので、この2月で3年目になりました。

まだみのり福祉会は一人ひとりの障がいのある方のニーズに充分応えられるまでに至っていませんが、少しずつ職員の資質を向上させ、地域に根ざした活動を行なっていこうと考えていますので、今後共ご支援をお願い致します。

さて、今年は障害者総合福祉法案が国会に提出されたり、4月には改正障害者自立支援法の施行や事業所の運営にとって一番重要な報酬改定が実施されるなど障害福祉分野においては昨年に引き続き重要な一年になりますが、みのり福祉会の原点を忘れることなく、この一年を乗り越えられればと考えています。

今回の会報のテーマは「2011年3月11日震災から」です。
職員のいろいろな想いを感じ取っていただけたら幸いです。

あの日

あの日、私は年休をもらっていた。自宅で娘と母、犬の孝太郎と過ごしていた。外で車を洗っていた私は、普段聞いた事の無いような地響きと、木々が揺れる音を聞いた。周囲を見渡した瞬間、地面が上下に動きだす…。娘が孝太郎を抱き抱え、母と共に玄関から飛び出してきた。水道管は破裂し、屋根瓦が降って来る。木々の揺れはいつまでも続き、周囲の全ての物が音を出す。何か永遠に終わらない恐怖の始まりのようだった…。

その日は、自宅もグループホームも停電となった。夜に備えホームの懐中電灯を近くのホームセンターまで買いに行く。その夜は、自宅よりもホームにいた時間の方が長かったように思う。自宅からの電話に目を瞑り、ホームの皆が不安にならないようにと願いながら過ごしていた覚えがある。本当ならば、家族の安否を心配し、すぐにでも自宅に戻りたいと思うところなのだろうが、それが出来ないのがこの仕事なのだろうと少し考えてしまった。きっとこの日は、同じように思ってもどかしい気持になった人たちが、たくさんいたんだろう。しかし、自分はそれでもこの仕事を辞めずに続けているのだから、私の中にはそれなりに確かな思いがあるのだろう。何か愛情にも似たものである。こんな時は、何もかも放り出してしまえば、全て終わる。でもそれはしない…人と人との繋がりは、やはり契約ではなく心にあるのだろう。

誰でも、明日は何が起こるか分からない。乗り越えられるか分からない事もきっと起こる。でも、何とかしなければ先には進めない…。たとえそれがどんなに辛くても、新しい明日を迎えられる事の方が何倍も嬉しいのだ。今生きてここに立っていられる事、その喜びをかみしめながら、これからも新しい一日を一日でも多く、朝陽と共に迎えていきたいと思う。因みに犬の孝太郎は、揺れる世界を見ながら、誰に吠えるでもなくいつまでも吠え続けていた。「負けないぞ」みたいな…カッコ良かった。

副理事長　川嶋　司朗　（みのりほーむ担当）

2011年3月11日、震災から

＜ ピース職員 ＞

川嶋　聡一

ご無沙汰していました。さぽーとピースの管理者の川嶋です。新しい一年がはじまり毎年のことながら“今年はいつもと違う一年に”と思うのですが、それがなかなか“特別”にならないのが現実で…
というのも具体的にどういう自分になりたいのかという目標が定まらず何となくで思っているからで…　今回のテーマは「2011.3.11震災から」というものですが震災以降感じることは、“このままで日本大丈夫か？”ということです。これまでの人生、大げさに言えば基本的に自分のことばかり考えてきた私ですが、こういう世の中の危機的な状況に際し遅ればせながらようやく“自分のことばかり考えていてはいけないのでは”“人とのつながりを大切にし同じ意識を共有していかないとこの危機を乗り越えていけないのではないか”ということを実感として感じられるようになりつつあります。全体の中の一員、それは家族からはじまり会社、日本、広げて考えれば世界、地球、宇宙と限りありませんが、とりあえず現実的なところで“日本”ぐらいで留めておこうかという私です……
“いつもと違う一年に”……基本的に気楽なひとり遊びに走ってしまいがちな私ですが、今年はいつもよりも全体の中の一員ということを意識しつつ何か機会があればもう少し人の輪の中に入っていこうかなぁと思う年始めです。

高橋　和也

全国1億2千万人のファンの皆様こんにちは!! 自称、みのり福祉会広報担当の高橋和也です。

さぁ、今回のテーマは【2011年3月11日　震災から】ということで、まずあの日のことを思い出してみました。3月11日午後の作業中、ニワトリちゃん達と楽しく小屋の中で遊んでいると突然立ち眩みが…昨日徹夜で勉強をしたせいかと思っていると目の前の畑が波打って動いていた。あれ？何かがおかしいと思っていると畑のラジオから震度7の緊急地震速報が流れてきました。帰宅後も余震が来てその都度、アパートの隣に住んでいた外国の方と同じタイミングで何回も外に逃げ出して苦笑いで挨拶してたっけ……。

さて、本題に戻りますが2011年の1番の出来事だった震災から自分が感動したことと言えば日本人のモラル意識の高さと秩序を乱さない冷静さです。

震災後、朝のトイレをしながら某読売新聞を読んでいるとこんな記事がありました。『物が散乱しているスーパーで、落ちているものを律儀に拾い、そして列に黙って並んでお金を払って買い物をする日本人を見て絶句した。』また、『1回の青信号で1台しか前に進めないなんてザラだったけど、誰もが譲り合い穏やかに運転している姿に感動した。複雑な交差点で交通が5分以上完全マヒするシーンもあったけど、10時間の間お礼以外のクラクションの音を耳にしなかった。恐怖と同時に心温まる時間で、日本がますます好きになった。』なんて日本人を評価している外国の方の言葉が書いてありました。なぜか自分が日本人で良かった～なんて思っちゃいましたよ。タイガーマスク運動や、なでしこジャパンの優勝といい今の日本も捨てたもんじゃないですね!!

自分の中でもこの2011年は人生のターニングポイントになったと思います。震災直後に利用者さん達と食料などの支援物資を集め被災地に送っていた矢先、新しい釣りメーカーのスポンサーが決まるなど良い話が続き『良い事をすれば良い事が自分に返ってくる。』ってことを実感しました。実際、今まで自分は釣り場のゴミ拾いをすると魚が釣れるという言葉を信じてゴミ拾い活動をしてきましたが、この件があって以来、釣り途中でも今まで以上にゴミ拾いをした2011年でした。でも、毎回嫁にこう言われます。『どうせ釣れないからゴミを拾うだけなのに釣り具屋に行き準備をする必要があるのですか？』ってね(汗)チャンチャン♪♪

仲村　秀行

常に目標を持って、自分の力を信じて、今年も活動していきましょう。

平成２３年３月１１日、東日本大震災が発生しました。
東北地方をはじめ、関東地方で多くの方が罹災され、今も避難生活を余儀なくされるなど大きな傷跡を残しています。
今回は、この大震災に際しての職員の想いを特集しました。

菅原　輝代

「高さ6mを越す大津波がきます。高台へ避難してください。」

人々は彼女の命を懸けた呼びかけを「天使の声」と呼んだ。その声が津波の恐ろしさとともに耳から離れないという。

市の職員の彼女は、3月11日の大震災の最初のゆれの後、まっすぐ防災無線に向かった。それからマイクに向かいずっと叫び続けた。自分のことより、家族のことよりまず住民を安全な場所へ誘導しなければという思いが優先したのだろう。数時間前まで静かな日常を送っていた町を押し流し、渦のようになって目の前に迫り来る津波の恐怖は、使命感でかき消されたのだろう。いよいよ放送塔のすぐそばまでそのうねりが来たとき他の職員に促され上の階に逃げたが、間に合わず、濁流に飲み込まれてしまった。肉声を家族も友人も聞くことはできなくなってしまった。

なんと言う勇気、責任感だろう。彼女の家族を思うと胸が苦しい。「天使の声」の娘を持ったお母さんは、そんな名前は要らないからそばにいて欲しかったとか、良く頑張ったね、誇りに思うよとか、人生思い切り生きたねとか色々な感情があるだろうと思う。

今、こうして何気ない平穏な日々が送れることに幸せを感じる。暖かい部屋で、家族揃ってご飯を食べ、テレビを観られるありがたさ。被災した方には元気になってもらいたいと思うが何もできないでいる。逆に懸命に生きようとする姿に感動をもらっている。

大切な人達の側にいて自分が活かせることを探し、しなやかに強く歩んでいこう。少々のことでへこたれていてはいけないのだ。彼女のようにはなかなかできないが、今出来る精一杯の努力を続けていきたい。

瀬浪　真子

2011年３月11日、私は農園の小屋の中にいた。とても寒い日で、そろそろ休憩にしようということでストーブにやかんをかけ、お茶の準備をしていた。そして突然、一瞬何が起こったのか分からないくらい揺れ、私は何を思ったのか、やかんを持って慌てて小屋の外に飛び出した。外では電線が激しく揺れており、しばらくこの地震は続いた。鶏小屋の方にいた利用者さんも、集まってきて、少し動揺している様子だった。農園に来ている利用者さんの無事を確認し、次にそれぞれの場所で作業している職員に電話連絡をしようとしたが、何度かけても繋がらなかった。家にも電話をしたが、やはり何度かけても繋がらない。この時、この地震で、大変な被害に遭ったところがあるだろうと感じた。

幸いというか、この辺りはさほどの被害もなく、生活も一時、停電や断水などがあったものの、家を流され、家族と離れ離れになった被災地の人たちのことを考えると、少々のことは我慢しなければならないという気持ちになった。被災地に行き、一生懸命にボランティア活動をしている人の姿をテレビで観るたびに、何もできていない自分に焦りを感じた。しかし、「今自分ができることをしよう、自分でできる小さなことも、一人ひとりの小さな力が合わされば大きな力になる」というような言葉を耳にしてから、とりあえず私にも今すぐにでもできそうなことをしようという気持ちになった。それはまず、こまめに電気を消すこと、スーパーの商品で一部が被災地への募金になるという商品を買う等という小さなことである。ほんの僅かなことではあるが、少しでも力になりたいという思いでいる。

温かい布団で寝ること、食べること、お風呂に入ること、家族で一緒にいること、仕事をすること…。どれもあたりまえのように思っていたことではあるが、この震災がそのあたりまえのことをとてもありがたいものだと気づかせてくれた。そして平凡とか、普通ということの大切さをしみじみ感じるようになった。

最後に、被災地の一日も早い復興を願いつつ、私は私にできることを続けていきたいと思う。

淺野　亨

初めまして。昨年、9月より、みのり福祉会に勤務（非常勤）している淺野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。「震災から」というテーマで一言、末筆ながら自分の思いを書かせて頂きます。

東日本大震災からもうすぐ1年が経とうとしていますが、今でもあの大きな揺れ、津波の恐怖は鮮明に覚えているところで、毎日テレビ等で映し出される映像は、目を覆いたくなる悲惨なものでした。そして今も尚、東北地方の方々は、不便、過酷なつらい生活、家族仲間を失ったつらさを背負いながらも前を向き、懸命に生きています。そういうことを考えると自分の弱さ、甘え、悩み事（あるのか？）等すべてが、小さい、しょっぱい事だと認識させられ、今後におきましては、「生かされてる命」に感謝し、人と人とのつながりを大切にして日々の仕事に励んでいこうと思います。

＜ ひまわり職員 ＞

君島　かおり

3月11日の東日本大震災では、想像を絶する被害が発生しました。

私の住む地域でも被害にあわれた方がいらっしゃり、祖母の住んでいる地域では避難指示が出される状況でした。

私は地震発生時、A学校からB学校に向かう送迎中でした。車内では、突然の大きな揺れに怖がり泣いてしまう子もいました。「大丈夫だよ」と声を掛けることで安心してもらうことしかできませんでした。

下校時間とも重なり、自分の子どもが学校にいるのか、又事業所にいるのか子どもの所在確認・電話も繋がりにくく連絡の取れない状況の中で、保護者の皆様は心配や不安な想いをされていたかと思います。私自身、事業所としても初めての事でしたので至らなかった点が多かったと思いますが、保護者の皆様の柔軟な対応やご協力のおかげで無事に引き渡しが出来た事本当に良かったと思います。ありがとうございました。

今回の震災の経験を生かし、今後同じような状況にも対応できるようなマニュアルの作成や学校とも協力し連絡を取り合いながら、保護者の皆様により一層安心して預けられるような事業所を目指していきたいと思っています。

節電など今の自分にできる事を見つけ、被害にあわれた方々の力になれればと思います。

高橋　良彰

災害に対する業務上の体制づくりについて報告するのは別の機会に譲るとして、私個人の変化について、ちょっとだけお話しします。

あれから、ささやかながら募金をするようになりました。

といってもコンビニやスーパーで買い物をして、気が向いた時にレジ横の募金箱へ釣り銭を突っ込んでいるくらいの、話題にする程でも無さそうな額です。

それでもチャリンチャリーンと小銭が箱の中へ落ちる音に耳を傾けると、その小さな箱のその先にいる見知らぬ誰かと今つながっている！そう実感したりします。

2011年末、日本漢字能力検定協会は、一般公募により選ばれた今年一年の世相を表す漢字の第一位が「絆」であったと発表しました。特大の和紙に力強く書かれた「絆」の一文字をニュースでご欄になった方も多いのではないでしょうか。

昨年3月11日の大震災後、被災地での復興の取り組みを見聞するにつけ、人と人とがつながり、支え合うことの尊さや大切さ、その心強さに深く感銘を受けました。そしてそれは同時に自分自身も地域やコミュニティの中で支えられて生きているのだ、ということを改めて気付かせてくれたように感じます。

美味しい物を食べ、欲しい物を手に入れ、好き勝手に遊び回る。それはそれで楽しいことなのですが、ほんの僅かでも時には誰かの幸せを願い、そして自分も誰かに生かされていることへの感謝を忘れないよう、これからも「絆」を信じて（吹けば飛ぶような額ですが）募金を続けて行こう、そう思いました。

余談ですが、お金を入れると店員さんの中には深々とお辞儀をしてくれる方もいて、それだけでもとても良い気分になったりします。ありがとう！こんな小銭で恐縮です…

大木　静華

あの日、家族はみんな仕事に行っていて、飼い猫の2匹と私だけが家にいました。初めの地震がきたとき、何が起こったのかわからずパニックでした。地震が小さくなってきたと同時に家族に電話をしたが、もう繋がらない状態でした。そのあとは家中、猫ちゃんを捜すのに必死でした。余震が続く中やっと見つけられ、2匹を毛布に包んで6階から階段で急いで車に行きました。それからも余震は続きマンションの壁が剥がれ、大きなコンクリートの固まりが落下するなど、思い出すだけで恐怖が蘇ってきます。

そんな震災から約10ヶ月、今でも時々テレビなどのニュースでは震災や原発問題のことが流れています。地震がくる度にまた、あの時のような大きな地震がくるのではないかと不安になりますが、震災直後のような緊張感は薄れてきてしまったように思います。しかし、地震への対処法といっても避難経路の確保や大きな鏡などは倒しておく、手の届く所に懐中電灯や貴重品を置くなど、災害が起きた後のことを考えて対策をしなければなりません。事故とは違って、気をつけていても地震は起こってしまいます。もしまた、大きな地震がきた時のことを考え、私自身もこれらのことを実践し、3月11日の時のような突然の災害に慌ててしまわぬよう、がっちりと構えていたいと思います。

本当はこれ以上日本に、大きな災害が起こらなければ一番いいのですが…。

金野　綾子

私はあの地震があった時、利用者を乗せた車内にいました。突然の大きな揺れと職員の不安そうな表情から、泣き出す利用者もいました。今、私は職員として何をすべきなのか…自分の無力さを痛感しました。利用者に気が紛れる話をしながら車を走らせ事業所へ向かい、テレビで地震・津波の状況を見て、これが日本で今起こっている事なのか…と信じられませんでした。

又、私の祖父母は岩手県に在住しています。電話を掛けてもつながらず、安否の確認が取れたのは震災から3日後でした。幸い、内陸部に住んでいたので被害は少なかったようです。震災から約半年後、祖父母宅に帰省する際に被災地（気仙沼・陸前高田）の状況を見に行きました。幼少期から遊んでいた馴れ親しんだ街が、悲惨な状況になっていました。震災の影響はテレビで見るよりもひどい…見ているのが辛かった…そんな中、全国のボランティアの方達が一生懸命復興に力を入れていました。日本は団結していて素晴らしいと感じました。

あと2カ月程で震災から1年が経ちます。まだまだ被災地の復興には時間がかかります。今、1人の大人として出来る事は何なのか。…命を大切にして精一杯に生きるという事、何らかの形で東北・被災地に元気を与える事、ひまわりの職員として利用者を支援する事…私にも出来る事が沢山あると感じています。又、当時は震災があった際の対応方法や避難訓練など、無知な事が沢山あったので、法人・職員・保護者との間で共有しておく必要があると思いました。私にできる身近な小さな事から、始めていきたいと思います。

佐山　優香

あの一瞬の出来事が私達に大きな事を伝えてくれたと私は思いました。
人の温かさや…　大切さ…　そして『愛』を教えてくれました。

今一番に言われている『絆』という言葉は本当に強く胸に染み込ませたい大切な言葉だと思いました。
あるものが突然に失い…その失ったものを埋める事は時間がかかり…もしかすると心にはずっと残るのかと思います。
『これは現実…。』そう自分に言い聞かせることはとても苦しいことであります。しかしこれは現実であり…今である事には変わりない事が、受け入れるのにとても胸が痛く、悲しい事であります。

私は、今生きている事を『生かされている』のだと…。そう思う様になりました。そして、改めて命の重さや大切さを深く感じました。
これからも支え合いながら、そして『今』という時間を大事にしていかなくてはいけないなと思いました。
感謝する気持ち…　謝りの気持ち…
伝えなくてはいけない事は真っ直ぐに、感じた時には素直に伝えていきたいと思いました。
今、私が生きているこの時を支えて下さっている、たくさんの方達の愛で私は生きています。とても感謝しています。ありがとうございます。

同じ日本である中で、苦しみの大きさが違い…今も苦しみや悲しみに戦っている街の方達を心から復旧に向かって、少しずつ変わっていく事を祈っております。
最後に私の好きな四文字熟語を載せたいと思います。

『一期一会』『相思相愛』
『以心伝心』

読んで頂きありがとうございました。

伊藤　郁

あの日、私は子ども達三人と家にいました。
机の下にかくれ「怖い」と叫ぶ娘に「大丈夫」と声を掛けながら小さな息子を抱え、ゆれがおさまるのを待ちました。

落ち着いてから机の下より外に出ると、部屋の中はメチャメチャになっていた状況に体がふるえ、そして子供達と一緒の場所にいれたことに感謝しました。

震災後一番心配だったのは、余震が続くなか家族が離れた場所で過ごしている間で、ここまで真剣に安全確保を考え子供たちと話をし、身を守る方法を悩んだのは人生で初めてでした。

東北や関東の被災地で家族をなくされた方の気持ちを思うと胸が痛みます。

自分に出来ること。

今後、同じような震災が起きたとき、なるべく落ち着いて万全の対応ができるよう準備を整え、小さなことからコツコツ積み重ねていくことではと私は思います。

あの日を決して忘れてはいけない。

頭にも心にもしっかり刻み込んで、命があることに感謝し、大切に生きていきたいと思います。

＜ みのりほーむ・みのりほーむ2職員 ＞

長戸　由香里

3.11から早1年になろうとしています。
最近また地震が続いていて気になっていますが、備品や蓄えをもう少し考えていかないと、と思います。

森　政雄

今回の震災で最も重要なことは情報の伝達！
的確な情報が迅速に伝わらなかったことが数々の混乱を招きました。
情報化のこの時代なのに、ひとたび非常事態が發生すると有線電話・携帯電話はほとんど繋がらないことが実証され、アマチュア無線による災害現地と中央省庁との連絡網が大活躍しました。
震災発生以降無線通信の重要性が再認識され、減少一方だったアマチュア無線人口が増加傾向に転じています。
一人でも多くの方が無線従事者免許を取得できるよう、「養成課程講師」の立場で微力ながら貢献していきたいと思います。

P.S.　医師会や赤十字を始め多くの団体でいざという時のための組織が作られています。
障害者支援団体や事業所でもこういった動きが起こることを期待してやみません。

大島　芳江

３月11日の当日は、夕食の仕度を始めようとした時です。
被害は5～6個の食器・置物等が割れた程度でした。水・電気・ガスが止まり、ガスは外のメーターのボタンを押しましたら復帰しましたが、お風呂は2日間入れませんでしたがあまり混乱もせず次の日が土・日曜でしたので本当に助かりました。
今思うと、私たちのホームは軽度の障害者ですので、私自身良い所で働かせていただいて本当に恵まれていると感じています。
被害の大きかった旭市等海岸近くのケアホームさん等のお話をお聞きする度に近所の方々との常々のつながりを大切にし、お力をお借りしなければならない時が絶対無いとは言い切れません。その為にも連絡網等対策を考えなければならないと思います。

ロゴマーク

このマークをご存知ですか　？
たぶん何のマークかわからない方が多いのかと思います。
これは、みのり福祉会のロゴマークです。キーワードは
「地域」「人」「生活」「働く」「学ぶ」です。
どの色が、どの言葉にあたるかあててみてください。
このマークを見かけたら、ご声援をお願いいたします。
よろしくネ　！！